物流Weekly ウィークリー

全国13拠点をネットワー

2021年11月1日号

https://weekly-net.co.jp

毎週月曜日発行 購読料3か月12,500円（送料・税込み）

株式会社 物流

新体制ス

渡すための基礎作りのため、経験豊かな永井氏（ロジエージェント会長）が新代表理事に就任したほか、副理事には瀬戸口敦氏（北商物流社長）、理事に遠山毅氏（アクシスネットワーク社長）、蓮沼綾仁氏（H.A.S社長）、嶽山新氏（Trasaburou社長）、村上陽一氏（ミスターカーゴ社長）がそれぞれ就任した。

新体制となって、組織のスリム化を行い、軽貨物業界の知名度と健全化を目的に、日本一の物流法人加盟団体を目指す。体制を変えることによって、役員一人ひとりの役割の機に、業界全体のイメージを高めることで、ドライバーの求人や会員の増加につなげていきたいとしている。

新体制となって早速、わらべや日洋グループの物流関連事業会社のトランスKポーター（尾崎隆社長、東京都東大和市）やD&Dマネージメント（村脇学社長、同中央区）の軽貨物事業部が加盟が決まっており、業界の日常生活の一部としてあり続ける為に、理事一同邁進する所存」としている。

なお、同協会では、新型コロナ感染予防対策として、抗原体検査キットの共同購入や、人材育成の研修の一環として、元日本ハムファイターズの選手として活躍した白井一幸氏の講演など、積極的に協会活動に取り組んでいる。

（三村秀寿）

時代に即した 若手を中心に

なとの荷役運搬機械や高所作業車は労働安全衛生法に基づき、年に1回の「特自検」の実施が義務付けられている。同協会は、「令和元年度の実施台数は全国で約197万台と推定

イメージキャラクター
「とくじけんくん」

運送社長の SIDE-B 知られざる側面

松本物流 松本健作社長

松本物流（大東市）の松本健作社長が、大切にしているものは、ベンツE63SとレクサスIS300hの2台。

同社長は、昔から車が好きで数々の車両に乗ってきた。その中でも乗り心地の良さでは、この2台が一番という。ベンツは、4リッターV8エンジンで612馬力あり、カーボンパッケージなどこだわりの車両。走行モードも4種類あり、状況に応じて快適に乗りこなせるという。

（左から）レクサスとベンツ

松本社長は「昔から憧れていた車両に乗れることは幸せなこと。これも順調に仕事をしてこれたから購入できるようになった」と話す。

また、もう一台のレクサスは、ハイブリッド車に乗るのは初めてで燃費の良さに感動しただけでなく、ほどよい大きさで小回りなども効き色々なところでも乗りやすいことで気に入っているという。

乗り心地の良さに加え
燃費の良さに感動

「レクサスも買うつもりは無かったが、いざ購入して乗ってみると乗り心地の良さなどに感動している。燃費の良さにもびっくりしているが、2台とも楽しく乗れる車。これからも大切にしていきたい。コロナ禍で遠くに出かけることはできないが、落ち着けば遠出もしたいと思っている。こんな良い車に乗れるのも良い顧客に恵まれたことと、従業員が頑張ってくれた結果だと思っている。これからも頑張って売り上げをしっかりと確保していきたい」と話す。

同社長は憧れの車両に乗ることで仕事に対してのモチベーションにつながっているだけでなく、常に頑張ってくれている社員への感謝を忘れず今後も営業展開をしていく。

（中村優希）

J2水戸デザインのラッピング車両

水戸市内で特に好評

プロテックホールディングス

プロテックホールディングス（秋田俊二社長、茨城県水戸市）は、同市を本拠地とするサッカーJ2のクラブチーム「水戸ホーリーホック」のデザインを施したラッピングトラックを今年7月から運行している。

デザインは秋田社長が自ら担当。同社長は、「県内をメインに関東全域を走っているが、特にホームタウンの水戸市内では遭遇を喜ばれる声も多く聞かれる」とし、「SNSなどでは、見かけた日は良いことがある『幸運のトラック』と呼ばれているようだ」と目を細める。

「現在運行中の19台に加え、増車する車両にもすべてラッピングする予定で同じデザインのステッカーも作成した」と同チームを全力で応援する同社長。「水戸ホーリーホックを通して、たくさんの方々とのつながりをより深めていきたい。難しい時代の中、地域のみなさまに少しでも明るい話題をお届けできれば」と語った。（高橋頌子）

ラッピング車両

（レイアウト・早瀬勇一）

11/1 MON ▼ 30 TUE

特定自主検査強調月間

特自検「健康

スローガン「安全を みんなでつくる 特自検」